

一年を振り返って

～掛川地域力向上委員会のしごと～



<コミュニティグループ>

コミュニティグループのこの一年は「ふるさと再発見 山渡る風」の出版に向けての実務作業が中心となりました。

- ①原稿の募集
- ②原稿を手書き文字に写す
- ③解説文の検討
- ④編集
- ⑤校正

特に誤字については、メンバーの両の目でしっかり確認しているのですが、まだ見落としをしているのではと時々不安になります。皆、本づくりに関しては素人ですが、話し合いを重ねながら順調に進んだと思います。画像処理や文章の整理は富田彪さん愛用のパソコンが活躍してくれました。



また、年賀はがきですが、1400余枚の申し込みがあり、その数に驚きました。「この地域独自のもの」と言うのが、これからの地域活動の重要なポイントかも知れませんね。本も6月頃には出来上がる予定です。小さなものですが、掛川の薫りをいっぱい感じていただけたと思います。

<子育て支援グループ>

今年度も子どもたちに温かいご支援とご協力をいただきありがとうございました。

1.見守り活動

見守りボランティアの方に卒業生よりお礼を感謝状にして配布した。来年度も継続のお願いと新規のボランティア募集をする。

2.小規模特認校周知活動

掛川小は2020年度より瀬戸市内どこからでも入学できる小規模特認校になります。来年度、新入学生がいない現状を受け止め一人一人が今できることをする。

①掛川マップを地域外に置かせてもらう。

児童館、やすらぎ会館など

②掛川の素晴らしさをInstagramで発信していく。

地域での行事、美しい風景を写真や動画で伝える。

③「山渡る風」を歌おうプロジェクト

総会で掛川小で歌い続けられている掛川のオリジナル曲を地域の方々と一緒に歌い、掛川の良さを再確認する機会にしたい。

3.里山整備の参加

2月17日、品野台地域力子育て支援グループの里山整備事業に長根地域力と共に見学し交流をした。来年度は子どもたちと一緒に参加したい。

以上について検討、活動してきました。

<環境美化グループ>

両町の環境美化活動では、多くの方々に手伝っていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

ご意見などがあればどんどんお聞かせください。

○年2回のゴミ拾い

- ・平成30年6月2日(土)
- ・平成31年1月20日(日)雨天のため中止

○定光寺蓮池周辺草刈り

- ・平成30年7月21日(土)

○年2回の花の植込み(掛川地区7か所)

- ・平成30年6月16日(土) ベゴニア(750P)
- ・平成30年12月9日(日) パンジー(750P)

※1回分は定光寺自然休養林保護管理協議会より補助金50,000円を充てました。

両町のみなさん、いつでもどこでも誰でも、気づかれた方は花を可愛がってください。

<高齢者支援グループ>



貸し出しを

しています!!

問い合わせ先

中野 勲 ☎48-4046

前田純二 ☎48-4434

お気軽にどうぞ

貸し出しできるもの

ヘルメット	10 個
脚立	2 脚
足場板(4m)	1 枚
高枝切ノコギリ(全長5m)	1 台

おたすけ隊も活動中!

こちらもお気軽にどうぞ。

新春お年玉クイズ解答編

みなさん、たくさんのご応募(14名)ありがとうございました。

厳正な抽選の結果、次の5名の方が当選されました。おめでとうございます。

賞品は後日、お手元に届けさせていただきます。

1				イ	ン	フ	ル	エ	ン	ザ
2		ト	ウ	モ	ロ	コ	シ			
3			シ	ヨ	ウ	チ	ユ	ウ		
4	ス	ギ	ハ	ラ	チ	ウ	ネ			
5		ス	マ	ー	ト	フ	オ	ン		
6			ア	ベ	シ	ン	ゾ	ウ		
7				タ	ツ	ノ	オ	ト	シ	ゴ
8				ト	ウ	キ	ヨ	ウ		

答え

猪 突 猛 進

ヒントはお分かりになりましたか?

紙面内の赤い文字をたどると答えになっていました。

ご当選おめでとうございます!

(定光寺町) 加藤 登美子さん 井上 和子さん 加藤 芙美子さん

(下半田川町) 伊藤 佳宏さん 加藤 陽子さん

掛川さくら図鑑

撮影 富田 幹夫



カンヒザクラ(中国原産、定光寺車道横、4月1日)



シダレザクラ(エドヒガンの品種、定光寺町松本家、4月1日)



エドヒガン(蛇ヶ洞一の瀬橋、4月2日)



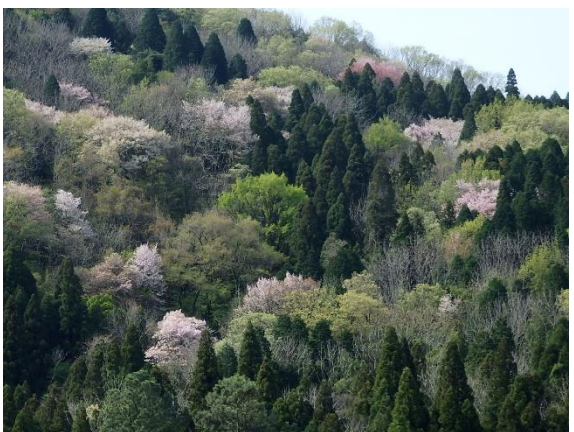
ソメイヨシノ(定光寺公園、4月7日)



ヤマザクラも開花(蛇ヶ洞一の瀬橋、4月9日)



サトザクラ御衣黄(花色が淡緑色から淡紅色に変化、定光寺方丈前)



カスミザクラの開花(下半田川町、4月23日)



ヤマザクラ(定光寺直入橋、4月7日)



会員の声 番外編

家庭菜園

掛川小教頭 森 裕示

休日は専ら外で過ごす時間が増えてきました。ゴルフのラウンドもそうですが、家庭菜園にも挑戦中です。

今は、冬のなんとも寂しい小さな畑の風景ですが、春を待って越冬中といったところです。

手厚く保護したつもりのイチゴの苗、心細い様な九条ネギとタマネギ、地面の下ではアスパラガスの根や、我がもの顔で勢力を拡大してきた茗荷が冬の寒さに耐えています。

そもそも家庭菜園を始めた理由は、夏に真っ赤に熟したもぎたてトマトを氷水に浮かべてかぶりつきたいという思いからです。始めたのは二十数年前、中断はあったものの、場所が変わり再挑戦から5年程。

その間、肥料は堆肥と化成肥料の即効性と遅効性の違い程度しか考えず、酸性を中和しようと苦土石灰を撒いたり、収穫後に腐葉土をすき込んだりする程度の極めて適当な土壌改良を施してきました。

それなりに作物は育ちましたが、なかなか思う様な収穫に結びつかず、根拠ない作業に土の力は衰えていないか不安を抱えていました。

番外編第2弾です。

教頭先生は掛川小学校に赴任されて7年になられます。いつも穏やかな笑顔で、学校と地域との架け橋の役割を担っていただいています。

偶然にも愛知県緑化センターで土壌と肥料の基礎知識を学ぶ機会があり、早速参加しました。

腐葉土が分解された腐植等の細かい土の粒が-に帯電し、+に帯電しているMgやKなどの陽イオンが吸着することで保肥力が高まることを初めて知りました。また、雨でアルカリ成分が流されたり、元々の土壌が酸性であったりする以外に、化成肥料の成分が吸収された残りのH⁺が増え酸性化に向かい、その結果微生物の活動低下や団粒構造の破壊などの悪影響が出ることも分かり、土作りの難しさを改めて感じました。

土作りは子育てに似ています。じっくり手間と時間をかけ、試行錯誤を繰り返します。肥料の選択や使用量、作物による好適土壌pHの違いにも気をつけて適正な改善で収穫増を目指していきたいと思っています。



編集後記

新体制で「広報やまびこ」をお届けしたこの一年、紙面はお楽しみいただけただでしょうか。記事集めや分かりやすい文章作りなど、いろいろなことに四苦八苦しながらあっという間の一年でした。来年度もさらなる紙面の充実を図りつつ地域の特色をたくさんお伝えできるような、親しみやすい「広報やまびこ」を作りたいと思います。これからもご愛読のほどよろしくお願いします。